

漁業調査船みずほ丸が 気象庁から感謝状を授与

【みずほ丸に感謝状】

水産総合研究センター漁業調査船「みずほ丸」が、海上気象の観測通報に積極的に協力し、気象業務に寄与した功績により、気象庁から表彰されました。

これは、6月1日の「気象記念日」に気象関係業務に功績のあった者を気象庁長官が表彰するもので、2015年6月9日に開催された授与式（第140回気象記念日式典）には、水産総合研究センター宮原理事長が出席し、気象庁長官より感謝状と楯が贈呈されました。

なお、「みずほ丸」は、多年にわたり海洋の表層水温の観測通報に積極的に協力し気象業務に寄

与した功績により、平成20年にも感謝状を受けており、今回で2度目の受賞となります。

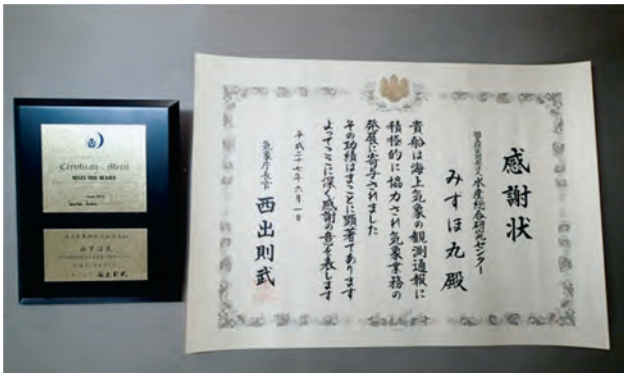
【海上での気象観測】

気象庁から提供される気象情報は、陸上だけに限りません。むしろ、海上の気象情報は、船舶の安全な運行のために欠かせない情報となります。しかし、海上には陸上のように多くの気象観測所はありません。そこで、航行している調査船や商船、漁船など様々な船舶での観測によって得られた気象データが予報に利用されているのです。

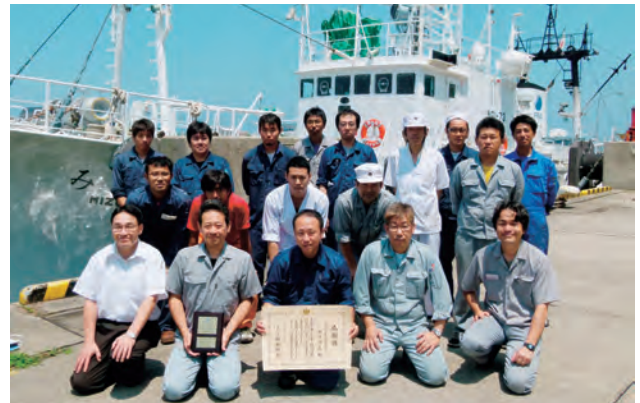
現在みずほ丸では、航海中、1日2回の気象観測値を漁業無線局経由で通報しています。また、海洋観測（CTD）によって得られた水温等のデータも衛星回線経由で、気象庁に通報しています。

【宮本船長の受賞の言葉】

通信長を始め、乗組員の日々の努力が認められ、うれしく思います。日本海では、船舶通航が少なく観測通報が貴重なデータとなっており、今後もできる限り貢献したい。気象情報は受ける一方だけでなく、情報発信と併せて行うべきであり、センター各船にも広がって行けば予報精度は更に上がっていくものと思われま



7月10日、みずほ丸船内にて、日本海区水産研究所長からみずほ丸船長（左）へ感謝状と楯が手渡された



感謝状と楯を手にするみずほ丸乗組員